

住まいと暮らしのデザインブック

住まいnet新潟

WWW.SUMAI-NIIGATA.NET

vol.36

AUTUMN & WINTER 2023-2024

550yen

特集

「環境建築」に住む

誌上で
完成見学会 **新潟の住宅実例集**

住まいづくりのアイデアを探して

スモールキャビンの誘惑

読者プレゼント!

資料請求された方々に多数プレゼントをご用意しております

SUMAIZUKURI
DESIGN
CENTER
NIIGATA

CONTENTS

特集 ライフスタイル提案

014 「環境建築」に住む

誌上で完成見学会

043 新潟の住宅実例集

044 株式会社風間建築事務所

050 有限会社大恭建興

056 アットホームラボ／株式会社アオキ住建

062 オーガニックスタジオ新潟株式会社

068 T's home／津野建設株式会社

074 株式会社石田伸一建築事務所

080 株式会社高田建築事務所

086 キズナハウジング／株式会社小池

092 ブラウム建築設計事務所

098 イエライフ／小出建設株式会社

104 株式会社キューブデザイン

110 ダイケンアーキテクト／株式会社大建建設

116 株式会社松尾工務店

122 株式会社ITO建築設計事務所

128 roomz 株式会社星野建築事務所

159 ビルダーレポート

160 デジモ?／株式会社モリタ装芸

164 株式会社瀬賀工務店

168 グリーンスタイル／ダイエープロビス株式会社

170 LOCAL LIFE STANDARD／株式会社池田組

172 株式会社カタチ創庫

174 FPの家 新潟

住まいnet新潟vol.36 特別対談

176 「カタチ創庫」と「S・H・S」が家を?

特集 住まいづくりのアイデアを探して

182 スモールキャビンの誘惑

特集 月刊スマホ家マガジン

219 あなたの理想で相談会 お家カフェは吹き抜けで

245 ビルダーズモア

274 ものの生まれるところへ

住まいNET新潟読者プレゼント

267 資料請求方法

Welcome to Modelhouse

137 モデルハウスへようこそ

138 k.design house／株式会社桐生建設

144 有限会社フォルトーナ

150 ディテールホーム／坂井建設株式会社



Vol.36
AUTUMN & WINTER 2023-2024

Cover Story

湖のほど近く。少し上ると、山のただなか、という風景が広がる。しかし、実際は山奥ではなく、山の入り口。木々の新緑に包まれて、RCの上にガラスの建築がある。何だろう、どうして曲がっているんだろう?その答えは、特集にて。

福島県耶麻郡 1邸

Photograph: Isamu Murai

そのデザインに確かなクオリティを

家族の想い、素材、構造、

一つ一つの意匠を丁寧に積みあげたシンプルな住まい。

そして、住まう人の個性を生かす「余白」を残し

「無駄なものが削ぎ落とされて洗練された空間」をご提案いたします。

暮らしに合わせたアーキタイプオリジナルの造作家具やキッチンや古材、

アンティーク家具などデザインのアクセントになる素材にもこだわって

あなただけのライフスタイルを実現します。

ARCHITRIBE

株式会社アーキタイプ
〒950-0813 新潟市東区大形本町5-19-23
TEL 025-288-6694 www.architribe.jp
一級建築士事務所 新潟県知事(イ)第5061号
建設業許可 新潟県知事(般-2)第43935号



資料請求をして頂いた方先着30名様にクオ・カード500円分をプレゼント。※詳細は281ページをご覧ください。スマートフォンからでも資料請求できます。

足元と遠くをつなぐ視線。
行き来の中に、鮮やかな日々

空が高くなって、
秋がひたひたと近づいてきた。
山から下りる風、海からの風も
季節を含み始めている。

歩き慣れた歩道を、
赤や黄の葉が模様を織りなすのも
もうすぐ。

秋を見つけたら、見上げてみよう。
頭上には街路樹、
もつと遠くには、山々。

足元と遠くを、行ったり来たり。
いつもの日々の中で、
住まいや暮らしを考える時にも、
近くを確かめる目と
俯瞰で眺め下ろす目。

往来する視線が、
暮らしを見直すヒントをくれる。
毎日がもつと大切になる、
きっかけをくれる。

確かめながら、
次の季節へ、向かいますよ。

『住まいnet新潟』編集部一同

「思いどおりの家」を 建てたいなら

あなたにぴったりの
住宅会社を紹介します。

どんな家に住みたいのか、どんな暮らしを描いているのか。ご家族の思いを聞くところから始めます。

アドバイザー 小船井 みか

「『デザインにこだわりたい』。
思いを叶えてくれる会社に、
引き合わせてくれた」

長岡市、東山連峰のふもと緑の中。インテリアショップ・H・S長岡店の一角に「住まいNET新潟ラウンジ」はある。家を建てたい人と、地元住宅会社をマッチングするこの場所に、A夫妻は「家のことを相談したい」と訪れた。お子さんが生まれ「家賃を払い続けるのはどうだろう」と思ったのがきっかけだった。

住まいNET新潟ラウンジのことは、家を建てた知人から聞いたという。「相談できる場所があるよ。もっともA夫妻は「建てるなら地元の家社で」と思っていた。「ありきたりにしたくない」という二人にとって、地域に根付いたビルダーは、自分たちの思いに耳を傾け、叶えてくれそうなイメージがあった。「でも、名前を知っていたのは2社だけ。どんな会社があるのか、どこで建ててもらおうというのか、分からなかった。まずは情報を得たい。そして「まさにここ」という会社に出合いたい。A夫妻は、期待感を持って、ラウンジを予約した。

初回の打ち合わせ。二人は早速、「こんな家がいい」と保存していたイン

スタグラムの画像を見せた。シンプルなデザイン、物をできるだけ隠したすっきりとした暮らし。「TVボードも無くていい」。そんな二人にアドバイザーは、4社の名前を挙げた。

面談したのは3社。「2台分のインナーガレージ」「すっきりと暮らしたい」「ウッドデッキを作って、庭を楽しく使えるようにしたい」。具体的な要望を伝えてプランを作ってもらい、1社を選んだ。「玄関を入ったところから違った」「同社のプランを気に入ったことだった。」「実は、最後までもう1社と悩んだんですが、アドバイザーの方にも相談して、意見をいただき、決めることができました」。

知人からラウンジのことを聞いたA夫妻は今、家を建てるという会社の後輩に、「相談できる場所があるよ」と紹介しているという。「自分たちにはぴったりのところに出合えたので、いろいろ見る前に行くのがいいと勧めています」とは奥さま。ご主人は「家は大きな買い物だから、悩むのは当然。気軽に行ってみるといいと思う」と実感を込めた。

地元ビルダーで建てたかったけれど、どんな会社があるのか、分からなかった。ラウンジで、ぴったりの会社に出会うことができました。

相談者 小千谷市 A夫妻

住まいnet新潟
LOUNGE

特集

環境 建築

に住む

Living in harmony with nature.

今や、何を語るにも、何をするにも
掲げざるを得なくなった「SDGs」そして「環境」。
住まいでも、もはや、避けて通れない。
環境を考えて、家を建てる。
以前から、言われてきたことが、
2023年の現在、どんな形となって現れているのか。
4軒の住まいに、探した。

撮影 村井 勇

環境 02 建築

に住む

Living in harmony with nature.

季節を受け入れ、軽やかに

緑を背景に、眺めに向かって開く家。

環境をすべて「肯定」し、受け入れる設計に
環境との付き合い方が見える。

長岡市 T邸

街並みを見下ろす高台に建つT邸。2階LDKには、「花火が見えるから」と、高いところに連続窓が設けられた。
端から端までの開口は、空と街並みをパノラマで取り込む。「外が見たい」とたびたび言うお子さんを肩車に

環境建築

02
に住む



上／バルコニーに出ると、緑に囲まれる。まるでリゾートのヴィラ。山側に雪を落とすことを考えて、屋根は山に向かって下っている 下／バルコニーでは朝ごはんを食べたりしているというT家。「いながらにして、キャンプです」



小高い山の麓。市街地を遠く見下ろす高台に、小さな家が建つ。屋根は、「雪に対して、もっともエネルギーやコストがかからない形状」として選ばれた片流れに。勾配に沿って空に向かう窓、その透明感とシンプルな平面が、軽やかだ。

玄関を入ると、視線はまっすぐ緑の中へ。テラスへと地続きになった土間が、外気分を持って来る。まるで、タープの下。「カフェみたい」と求めたT夫妻に対し、生活感を排除し、若干暗めに。だからこそ、階段の上は、ギャップに映える。ハイサイドライトの光、バルコニーには手が届きそうな緑。無色から光と色彩あふれる中へ、突然、入り込んだよう。

「花火が見えるんですよね」。T夫妻の話聞いて、天井際の高い位置に、連続窓を提案した田中洋人さん。眺めを生かしつつ、建物を支える構造体として設けた筋交いが、意匠となって軽やかさ

を生んでいる。耐力壁でなく筋交い、軽くなった分、環境負荷も低くなる。

「この時期が、一番いい」。T夫妻の言う裏の景色だが、冬になると一変する。一面の白。しかも、環境に負荷のない形もある昔ながらの自然落雪によって、家は雪に囲まれ、かまくらとなる。「もう、外に出なくていい、と決め込んで籠る」。雪が音を吸い込む静けさと白の中、グレーの空でも、見上げれば、心が広がる。それは、変わらない。

色鮮やかな季節、白い季節。太陽と雪。「あらゆる環境を肯定的な要素として受け止めた。この地域、この場所に寄り添う住宅だと思う」と田中さんは言う。加えるなら、寄り添うからこそ、季節を色濃く、感じられるのだろう。強い武器で自然に対峙するのではなく、ただ、受け入れる。そこに、雪国で負荷少なく暮らす、知恵と答えがある。

豪雪も緑も、そのままに。
四季折々、環境に寄り添う



西を向くT邸の外観は、午後になると深いグレーの壁面とガラスが日差しを受けて、発光したかのように輝く。小高い山を背景に、手前の土手からも地続きで、風景に心地よく溶け込んでいる

住み心地を包む、大屋根の住まい

伸びやかな大屋根の下には、さまざまな「心地よさ」が溶け合っている。温熱環境、眺め、開放感、暮らしやすさ。高い性能を前提に「住み心地」を求めた結果だ。



三条市 S邸 | 木造軸組工法 | 工期180日 | フリープラン

右頁/リビングは、南側に大きな開口が取られ、その前に吹き抜けの階段が設けられている。2階の窓からも日差しが差し込み、1階と2階の隅々まで光を届ける。左頁上/ダイニングテーブルはLDKの一番奥に。奥には畳のヌック。つなぐL字型の窓は、入角(いりすみ)にして、コーナーの柱周りをすっきりと仕上げている。下右/2階ホールに上ると、外から見え隠れた十字が室内にも見える。下左/玄関ホールはゆったり。右手奥には水回り空間が集められ、正面の壁のニッチはまるで床の間のよう

の見学会に出かけ、住み心地を体感した。「とにかく居心地が良かった」。自然素材の家は、それまでの見学会で感じた建材やベンキの匂いが気にならなかった。冬なのに室内は暖かかった。「それに、皆さんの感じもすごく良かったです」。専務の大樹さん、設計の佐藤光さん。外のテントで受付をしていたのは、社長の小幡富美樹さんと後で知った。さらに同社の見学会を2、3軒訪れて、大工の腕を確信した。「ほかと違いました。すごく丁寧な仕事で、間違いないと」。数十社をめぐり、やっとたどり着いた家づくりの出発点。「大恭建興さんで建てられなければ、建てなくていい」。そう言い切るほど、決定的な出会いだった。

築数十年の家に、二世帯5人で暮らしていたS家。冬は寒く「冬は外と同じくらいでした」と奥さまは振り返る。「家を建てよう」。数年前、ご主人の一言で家づくりは始まり、2年ほど前から、本腰を入れて、住宅展示場や完成見学会を訪れたという。「10社、いや20社以上見たかもしれません」。何十棟もの家をめぐり、奥さまは「温熱環境」に注目するようになった。たとえ全館空調と謳われていても、エアコンの風が気になり、別の方法で気持ちよく暮らすことができないのか、思ったからだった。そんな折、あるブログが目にとまった。大恭建興の専務、小幡大樹さんが、温熱環境のこと、床下エアコンのことを発信していた。「すこくおもしろかったです。同時に「こんなにオープンにしているの？」と。どんな会社なのかと興味が高まりました」。早速、同社

階段回りが吹き抜けになったLDK。リビングスペースは土間になっていて、キッチンとフラットにつながる。木と漆喰の自然素材の中に、キッチンカウンターや階段、手すりの金属が映える。2階の手すりは、外構用のスチールフェンスをスチールの枠と組み合わせて製作

木、漆喰、金属。無垢のままの素材が溶け合うLDK

白い金属サイディングに一部、木をあしらった外観。クールさと温かみが溶け合ったテイストは、室内にも続いている。床は無垢のハイム、壁は漆喰塗り。いずれもアットホームラボの標準仕様の自然素材で囲まれ、ステンレスのキッチン、スチールの階段や吹き抜けから見える2階の手すりがキリリと空間を引き締めている。

「無垢の木とインダストリアルな組み合わせ」という方向性とともに、S夫妻は、平屋、大きな窓、吹き抜け、アイランドキッチン、螺旋階段、といった希望要素を伝えた。初回の打ち合わせで、平屋はスキップフロアに変更。「私たちがこだわっていたのは、平屋のスムーズな動線。お話しする中で、2階になっても暮らしやすい動線が確保されれば良いと納得できました」。さらに、アットホームラボの完成見学会で見た土間も取り入れることに。「もともと気になっていたんですが、実際に見て、『やっぱり、欲しい』と。自分たちの暮らしを考え、一段、下げるのではなく、リビングとフラットにつながることで、プランを固めた。

玄関からキッチン、そして洗面スペースやバスルームのある水回りは、回遊式の動線を採用。さらに2階も、洗濯物を干すサンルームとウォークインクローゼット、寝室

も回遊できるようにになっている。「乾いた洗濯物を畳んだら、そのままクローゼットに収納できる、理想的な洗濯動線」と設計担当者。生活のしやすい動線は、アットホームラボの設計の基本だという。

素材については、二人が示した方向性に沿って、コーディネート担当が提案した。外壁の金属サイディング、照明をはじめ、スチールでまとめた階段、手すり。細かなところでは有孔ボードやスイッチ。同時に、手すりや波形トタンのドアはすっきりと納まるように、サイズやつながりまでを細かく詰めたという。

建築中、「楽しみで毎日通った」というご主人。奥さまは「思い通りの形になっていくワクワクがあった」と話す。思い描いた住まいが完成した今、「土間にたくさん植物を置きたい」「家具を一つ一つ選んで揃えていきたい」と、二人はさらに具体的な夢を広げながら、第二步を踏み出した。

03

資料請求番号



ダイニングキッチンの背面は床から天井まで収納スペースを確保。食器のほか調理家電やゴミ箱、食品なども収納できる大容量で、戸を開めれば壁となり、シンプルな室内を邪魔しない



左上 / ダイニングの裏に設けられた収納スペース。上部の扉の中にはエアコンも収納されている 左中 / 1階の居室からキッチンを見る。右、階段下のスペースは、収納にも使える 左下 / グレーでまとめた水回り。手洗いの横には洗濯物を干すスペースも確保 右 / 開放感がありながら、籠る雰囲気のあるリビングスペース。グレーの壁は、室内からそのままテラスの塀へとつながっている



左 / 2階にある居室。小さな窓だが、たっぷりと光が入るよう、方角が計算されている 中 / すべての個室には収納が設けられている。居室の広がり優先させ、オープンに。棚板は高さを変えることができる 右 / キッチンに立つと、正面にテラス、窓から外へ、空へと視線が抜ける

プラウム建築設計事務所

〒950-0066 新潟市東区長者町2-26-2 Tel 025-383-6744 Fax 025-383-6741

詳しい企業情報は「ビルダーズモア」をご覧ください。

09

資料請求番号



資料請求をしていただいた方先着30名様に
クオ・カード500円分をプレゼント。
※詳細は281ページをご覧ください。
スマートフォンからでも資料請求できます。

敷地面積 / 235.05㎡ (71.10坪)
延床面積 / 93.97㎡ (28.42坪)
1階面積 / 64.58㎡ (19.50坪)
2階面積 / 29.39㎡ (8.89坪)
工 法 / 木造軸組工法
基 礎 / 布基礎
断 熱 材 / 高性能グラスウール
屋 根 材 / ガルバリウム鋼板

外 装 材 / ガルバリウム鋼板
内 装 材 / クロス、セメント板
床 材 / タモフローリング
開 口 部 / 断熱サッシ
キッチン / TOTO
バスルーム / TOTO
そ の 他 / 耐震等級3
竣工年月 / 2023年7月



上 / 北面道路に面しては、閉じた外観。県産杉をグレーに塗り、四角をずらしつつ組み合わせている。正面と2階の植栽は、住宅街とつながるための配慮 下 / 2階にもテラスがある。階段を上ると開け、先ほど、道路から見た時に頭を出していた植栽と再会



まるで、ピクチャーウィンドウで切り取ったような景色だが、ここは、外壁に囲まれたテラス。景色に迫り出すような開放感と、ニッチのようなプライベート感に浸れる。その心は、中二階の高さにある「スキップテラス」だ

真ん中に、東西を貫く緑道のある住宅街「みちまち」。
北面に道路、南面に街路樹と道。
外とどのように接し、どうつながるのか。
k.design house が出した答えは「スキップテラス」だった。

K.DESIGN HOUSE

Welcome to
Modelhouse
16



開放感とプライベート感の中
まちなかで心地よく暮らす提案

新潟市西区モデルハウス

k.design house / 株式会社桐生建設



point 3 / 隅々まで手と目を行き届かせた造作の数々

スチール階段のフレームと手すり、書斎スペースでは引き出し付きのカウンターにダブルの書棚、ベッドヘッドのニッチ、2590mmという幅の洗面台などを造作。「あったらい」を細かく、丁寧に実現している。



木造軸組工法
敷地面積 / 141.44㎡ (42.79坪)
建築面積 / 58.79㎡ (17.78坪)
1階面積 / 55.06㎡ (16.66坪)
2階面積 / 51.34㎡ (15.53坪)
延床面積 / 106.40㎡ (32.19坪)



スタイリッシュで開放的な家
所在地 / 新潟市西区坂井727-4
10:00~17:00(火・水・木休)



有限会社フォルトーナ

〒950-0892 新潟市東区寺山1丁目18-28
Tel 025-279-4443 Fax 025-279-4446
詳しい企業情報は「ビルダーズモア」をご覧ください。



資料請求をして頂いた方先着30名様にクオ・カード500円分をプレゼント。
※詳細は281ページをご覧ください。
スマートフォンからでも資料請求できます。



point 1 / 全体を見渡せる広々LDKで、高気密・高断熱を実現

階段スペースが吹き抜けになったLDKは、畳のスペースも含め、どこにいても一年中、心地よい空気に包まれる。高気密・高断熱に熱交換器型換気システムを組み合わせた施工と、温熱計算により、必要十分な性能で暮らしを支える。中庭に面した窓は、冬、熱を取り込む開口としても機能。

意匠と性能を
兼ね備えた
設計と施工

point 2 / 外からの視線を遮りつつ、隅々まで明るさを確保

中庭に面した掃き出し窓のほか、階段の上に設けられた2階の窓からも日差しを取り込むように設計。一方、道路に面した畳スペースの窓は、あえて高くするなど、外からの視線を遮ることにより、くつろぎの時間を生む。



特集

スモール

キャビンの

誘惑

撮影：松崎典樹

誰でも、心のどこかに、

潜めているのではないだろうか。

小屋への、憧れ。

日常から離れて

一人、静かに

好きなことを、心ゆくまま。

そんな夢を育んで生まれた、小屋。

Small Cabin

長野県軽井沢町にある「endai」。山の斜面に建てられた建物には、ミュージックバーと寝室などがある。翼を広げるように伸び、階段でつながるウッドデッキは、室内の広さとほぼ同じ広さに

母屋の2階にあるミュージックバー。夜、外で
飯を食べた後はこちらで音楽を聞きながら飲ん
だり、話したり。眠くなったら、階段を降りて、眠る。
「間（あわい）」をくれる場所

Small Cabin 1

長野県軽井沢町 endai

暮らしの機能を
バラして、小さく納めて。
森の中に3つの小屋

軽井沢の山の中、
手付かずの自然の中にある小屋。
食べる、くつろぐ、眠る、働く。
生活の機能をいったんバラして、
3つの小さな空間に
それぞれ、納めた。
小屋を歩き来して完結する暮らし。
外にはいつも、自然がある。
自然の中に、日常がある。

自然素材でつくる木の家

IELIFE EXAMPLE REPORT PAGE 098



イエライフ／小出建設株式会社

[本社] 〒954-0057 見附市新町3-3-10
Tel 0258-62-2261 Fax 0258-63-0176
[アトリエ] 〒940-0046 長岡市四郎丸4-10-26
Tel 0258-33-3118 Fax 0258-33-4830



小出直樹
Koide Naoki

代表取締役。「家づくりは暮らしの提案」をテーマに、住まい手の想いとイエライフのコンセプトを掛け合わせた最適なプランを親切丁寧に提案している。

代表者／小出直樹 創業／1972年 資本金／3,000万円 従業員／17名

事業内容／建築設計・施工・監理、不動産の売買・仲介、宅地造成工事

取扱工法／木造軸組工法

有資格者／一級建築士2名、二級建築士4名、宅地建物取引士4名

1級建築施工管理技士4名

免許番号／建設業許可 新潟県知事(特-3)第5552号

一級建築士事務所 新潟県知事(ホ)第4102号

宅地建物取引業 新潟県知事(14)第1498号

加盟瑕疵保険／株式会社住宅あんしん保証、住宅保証機構株式会社

株式会社日本住宅保証検査機構(JIO)

取扱い坪単価

50万円未満	50～60万円未満	60～70万円未満
70～80万円未満	80～90万円未満	90万円以上

※仕様や設備により異なりますので、お問い合わせください。

取扱いエリア

全県	下越	中越	上越
----	----	----	----

住宅性能

長期優良住宅対応	ZEH対応
----------	-------

構造計算

全棟実施	要望により	非対応
------	-------	-----

標準耐震等級

1	2	3
---	---	---



www.koide-arc.com



資料請求番号 10
スマートフォンからでも資料請求できます。

空間に、価値を。

PROUM EXAMPLE REPORT PAGE 092

プラウム建築設計事務所

〒950-0066 新潟市東区長者町2-26-2
Tel 025-383-6744 Fax 025-383-6741



坂井良二
Sakai Ryoji

新潟生まれ、一級建築士。2018年プラウム建築設計事務所設立。自然の一部としてある生活こそが空間の本質と考え、いつまでも飽きることのない「価値ある空間」を追求している。

代表者／坂井良二 創業／2018年 資本金／500万円 従業員／2名

事業内容／設計、監理、住宅建築、ビル建築、他各種建築

取扱工法／木造軸組工法、鉄骨造、RC造、SRC造、混構造、他各種工法

有資格者／一級建築士1名

免許番号／一級建築士事務所 新潟県知事(イ)第5241号

加盟瑕疵保険／株式会社住宅あんしん保証、住宅保証機構株式会社

株式会社日本住宅保証検査機構(JIO)

取扱い坪単価

50万円未満	50～60万円未満	60～70万円未満
70～80万円未満	80～90万円未満	90万円以上

※仕様や設備により異なりますので、お問い合わせください。

取扱いエリア

全県	下越	中越	上越
----	----	----	----

住宅性能

長期優良住宅対応	ZEH対応
----------	-------

構造計算

全棟実施	要望により	非対応
------	-------	-----

標準耐震等級

1	2	3
---	---	---



proum.net



資料請求番号 09
スマートフォンからでも資料請求できます。

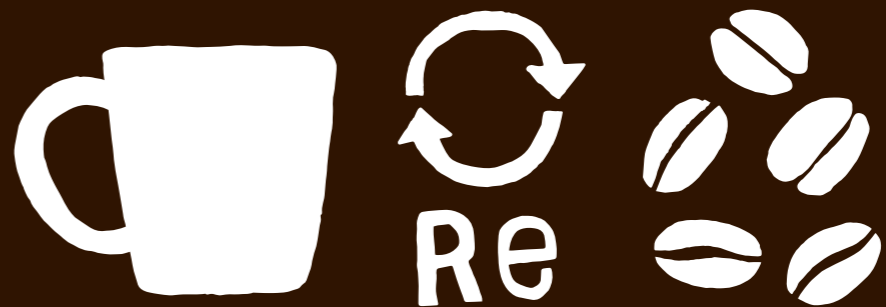


大橋洋食器

コーヒーが
味わいとなつた
琥珀の器

艶やかな光沢。
すっぼりと手に収まるサイズ、形。
コーヒーカップは、
廃棄されていた出がらしから生まれた。
鈍く深い色合いに
琥珀のコーヒーを留め、SDGsを発信する。

撮影／渡邊久男



時代は明治。「文明開化」とはいえ、まだ西洋の品々が珍しかった1886年、大橋洋食器は開業した。新潟市の中心部で、ホテルやレストラン向けに洋食器を提案、130余年を数える。

単に、器を売るのではなく、自分たちでつくることに乗り出したのは15年ほど前。「すずり石プレート」がきっかけだった。その後も、産地や作り手とともにモノづくりを進め、自社開発のブランドOHASHIを立ち上げる。しかし3年ほど前、「モノづくりが継続できなくなるかもしれない」危機に直面。コロナ禍や世界情勢により、材料や製品の調達が難しくなり、特に陶磁器は、以前から懸念されていた国内材料の枯渇への不安が拍車をかけた。「器を提供し続けたい」。そんな思いが、星野太志社長をSDGsへ向かわせたという。「大切なのは、供給し続けること。そのためには、身近なところから始めよう」。主な取引先である飲食店からは、以前から食品廃棄の悩みを聞いていた。「とはいえ、再生材を使いたいからと、無理して集めるのは本末転倒」。そんな折、鈴木コーヒーの佐藤俊輔社長と話している時、使い終わったコーヒーの出がらし、つまり「コーヒー粕」を大量に廃棄していると聞いた。「これだ」。その場で「Re・CAFE(リカフェ)」コラボプロジェクトが始まった。